

第一支部建築講座研修 HP 報告

枝川博士の建築講座～丸の内を知ろう～

2019年6月22日（土）「枝川博士の丸の内を知ろう」研修が台東区民会館で実施されました。参加者は59名（会員55名、非会員2名、委員2名）で大阪府、愛知県からも来られ、熱心に講義に耳を傾けていました。

9：20より一級建築士の枝川博士より「大丸有」（大手町、丸の内、有楽町）の歴史の説明がありました。この地区は元々浅い海で神田山を崩して埋め立て、そこに大名・旗本屋敷、大名小路を作り、明治に入り三菱が払い下げを受け現在の原型が出来上がった、こと等の講義がありました。明治期以降オフィス街として発展してきた説明がありました。第一期として明治後期はビジネス街の黎明期で英国人の設計による煉瓦組積造、第二期は大正から昭和へかけ、鉄筋コンクリート造、耐震化、大型化、第三期は第二次大戦後の高度経済成長期、第四期は21世紀の超高層時代の幕開け、と区分けされるそうです。



ビルの建て替えも行われており、欧米では100年くらい持たせているのに130年で四世代の建て替えもされているとの指摘もありました。

ビルの敷地は20mも掘ると安全地盤になり旧丸ビルでは5,000本もの松杭が打たれておりそれは水に浸かっていたので今でも腐らずに出てくるそうです。



街並みのデザイン（建築設計）として、丸ビルと新丸ビルに見られる非対称性、保存・部分保存・復元建築として東京駅、三菱一号館、日本工業倶楽部等の名前が挙がりました。また、公共貢献として一号館広場、大手町の森、歩道状空地等が人々に潤いを提供している、説明もありました。

将来像として、これからの開発は常盤地区、次が有楽町であり特に内外の都市間競争に勝ち抜くことが重要であり、関連して羽田空港をもっと埋め立てて広くすればよかった、という指摘もありました。

最後に質問に移り、主に以下のような質問がありました。

- 1 広いビル、あるいはこの地区の空調はどうなっているか。
- 2 三菱に払い下げられた時の価格はいくらだったのか。
- 3 浄化装置はどのようになっているか。

枝川博士の講義及び多数出された質問を聞いていて、参加者の中からは今まで断片的に知っていたけれど、今回の研修でまとめることが出来て良かった、との感想が聞かれました。

